



**世界の知財事情を知ろう！
－ The India Innovation Report －
～俯瞰的なレポートによく触れることで
アナリスト感覚を養う～**

2020年7月2日（木） 13:30～

クラリベイト・アナリティクス・ジャパン株式会社
IPグループ ソリューション&ストラテジー ディレクター
緒 冲（ツー ツオン）

本セミナーの概要と目的

特許情報の利用は、近年、より大きなデータセットで分析され、俯瞰的且つ発展的な目線で利用されることが多くなってきています。

IP Landscape等の背景がある中で、従来のような、特許情報を詳細な視点で解読することが、引き続き重要ではありますが、それに加え、戦略的な視点で、情報分析能力も求められるようになってきました。

そのために、分析スキルを高めることをまず考えがちなのですが、幅広く情報を収集する意欲や変化に対する洞察力など、今までと異なる素質を養うことがより重要になってきます。

インドは、イノベーション及び知財・特許において、近年様々な意味で、重要な国であります。自社のビジネスと直接関連する場合は、その現状とトレンドを把握することが有用ですが、関連が少ないと思われる場合であっても、定期的にこのような俯瞰的なレポートを選んで閲覧することが重要です。本セミナーではこのようなことを通して、上述の感覚の養成に役に立つと幸いです。

本セミナーの終了後、以下のことが参考になれば幸いです。

1. 近年インドの特許事情の全体像を知る

原文レポート（英語）を閲覧したい場合、より理解が深まる

2. レポートを通じて、アナリストの感覚を養うのに役に立つ

定期的に俯瞰的な分析レポートを選んで読むことで、洞察力を高めることができる

世界中の情報をタイムリーに入手するには、英語のソースを読むことを心掛けることを勧める

3. データの視点から、留意するポイントを把握する

収録データソースによる収録率及び分類付与状況の違いを知る

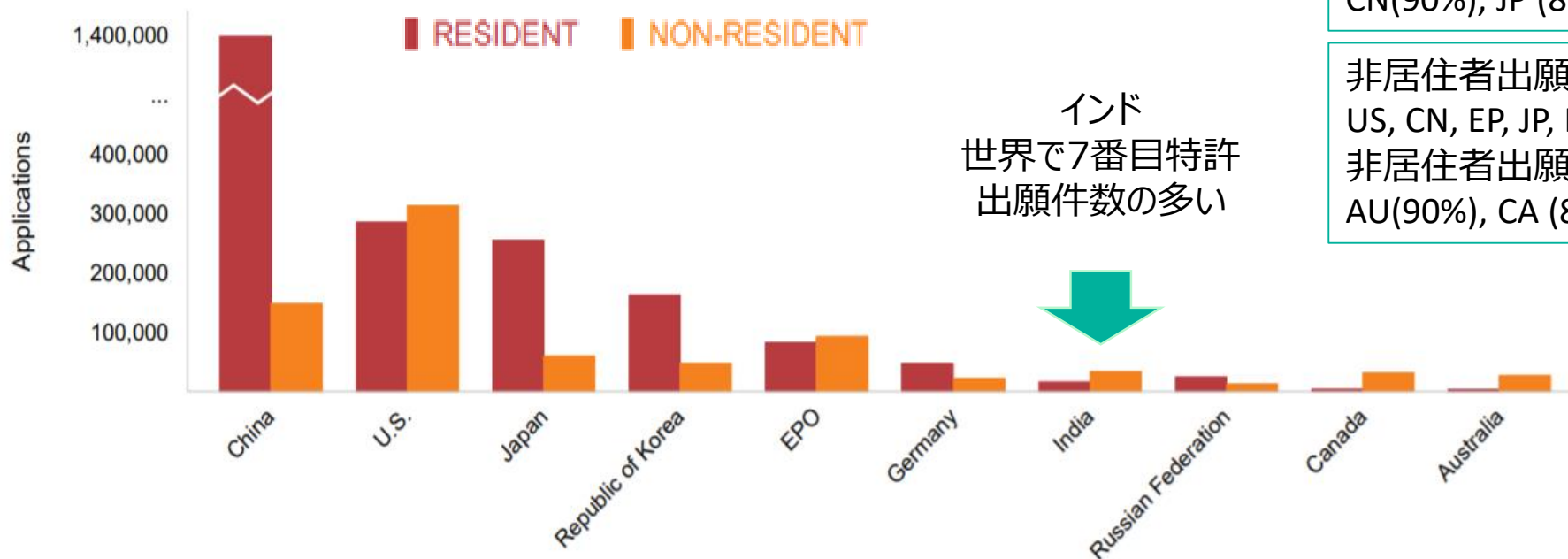
なぜ今、インドレポートなのか？

背景：世界の特許出願数のトレンド

Source: World Intellectual Property Indicators 2019 (WIPO)

China received 46.4% of all patent applications filed worldwide

1.2. Patent applications at the top 10 offices, 2018



居住者出願の量が多い国・発行機関

CN, US, JP, KR...

居住者出願の比率が高い国・発行機関

CN(90%), JP (81%), KR (77%), DE (69%), RU (66%)

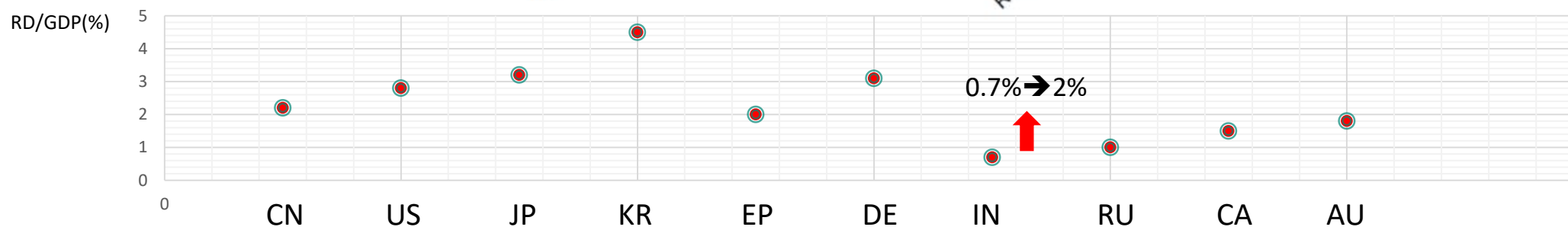
非居住者出願数の量が多い国・発行機関

US, CN, EP, JP, KR, IN

非居住者出願の比率が高い国・発行機関

AU(90%), CA (88%), IN (67%)

2014-15 4/5 (←以前)
2018-19 2/3 (←最近)
2021 1/2 (←予測)



レポートは、どのような内容か？

レポートは、どのような内容か？

The India Innovation Report



Table of Contents

Executive Summary	3
Methodology	5
Introduction: India priority patents from 2016 to 2018	7
Patenting in India	7
From India to the world	7
Top patent filers in India	8
Top technology areas and growth trends	10
Technology deep dive	13
Computing	13
Polymers & plastics	14
Communications	15
Pharmaceuticals	17
Electric power engineering	18
Food, water & biotechnology	20
Chemicals & chemical engineering	22
Instrumentation, test & measurement	23
Automobile & aviation	24
Semiconductors & electronics	26
Indian inventors, global priority	28
Conclusion	30

各技術分野ごとの詳細や、詳しいレポートの内容は、「The India Innovation Report」を参照ください。（本文は英語になります）

[https://clarivate.jp/blog/patent India innovation](https://clarivate.jp/blog/patent%20India%20innovation)

レポートは、どのような内容か？

Methodology

1. インドを優先国とし、2016年から2018年の間にインドで公開された特許（公開・登録）を検討した
2. Derwent World Patents Index (DWPI) classification : 50年に亘る一貫性のある分類付与

化学セクション (A - M)

- A - ポリマーおよびプラスチック
- B - 医薬
- C - 農薬
- D - 食品、洗剤、水処理、バイオテクノロジー
- E - 一般化学
- F - 繊維、製紙
- G - 印刷、コーティング、写真
- H - 石油
- J - 化学工学
- K - 原子力、火薬、保護
- L - 耐火物、セラミック、セメント、導電性無機（有機）物質
- M - 冶金

機械・一般セクション (P - Q)

- P - 一般
- P1 - 農業、食品、タバコ (A01 (A01N を除く) 、A24)
- P2 - 個人用、家庭用 (A41-A47)
- P3 - 健康、娯楽 (A61-A63、A61K を除く)
- P4 - 分離、混合 (B02-B09)
- P5 - 金属の成形 (B21-B23)
- P6 - 非金属の成形 (B24-B28)
- P7 - 加圧成形、印刷 (B30- B32、B41-B44)
- P8 - 光学、写真; 全般 (G02、G03、G09、G10)
- Q - 機械
- Q1 - 車両全般 (B60)
- Q2 - 特殊車両 (B61-B64)
- Q3 - 搬送、包装、格納 (B65-B68)
- Q4 - 建造物、構造 (E)
- Q5 - エンジン、ポンプ (F01-F15)
- Q6 - 機械要素 (F16-17)
- Q7 - 照明、加熱 (F21-F28、F41-F42)

電気セクション (S - X)

- S - 測定試験装置
- T - 計算および制御
- U - 半導体および電子回路
- V - 電子部品
- W - 通信
- X - 電力工学

レポートは、どのような内容か？

インド特許件数推移

Patents published in India and India priority publications from 2014-2018

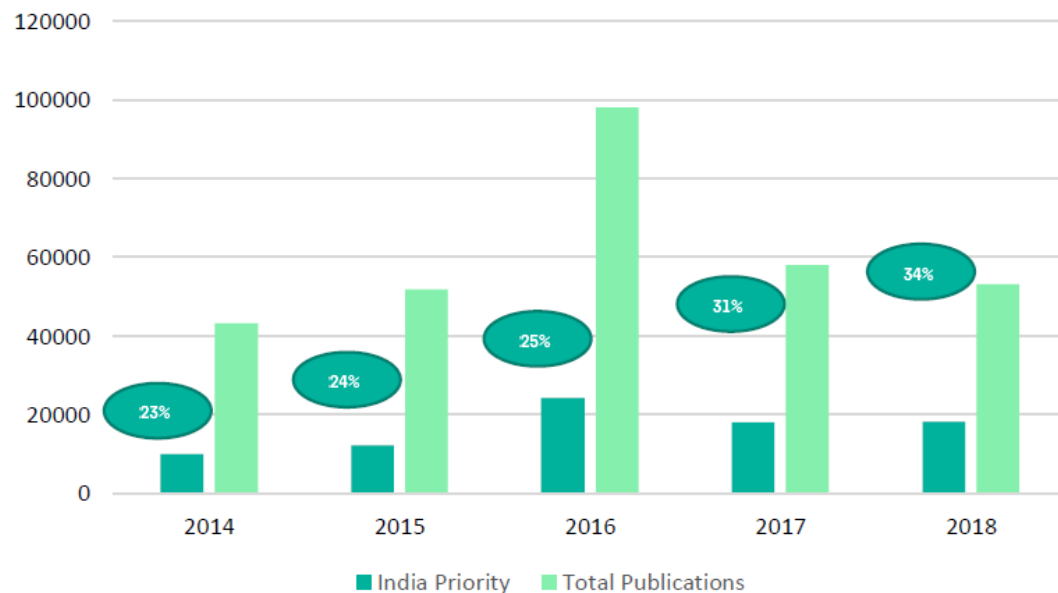


Chart 1: Patents published in India and India priority publications from 2014-2018.
Source: Derwent Innovation.

全特許公報に対するインド優先の公報の割合は増加（2014年の23%から2018年の34%へ）し、年平均増加率は16%（2014年－2018年）に達しています。インド優先特許の増加はこの国でイノベティブなアイデアが増えており、インド国内の組織・企業などで特許の意識が向上していることも示唆しています。

インドから世界へ

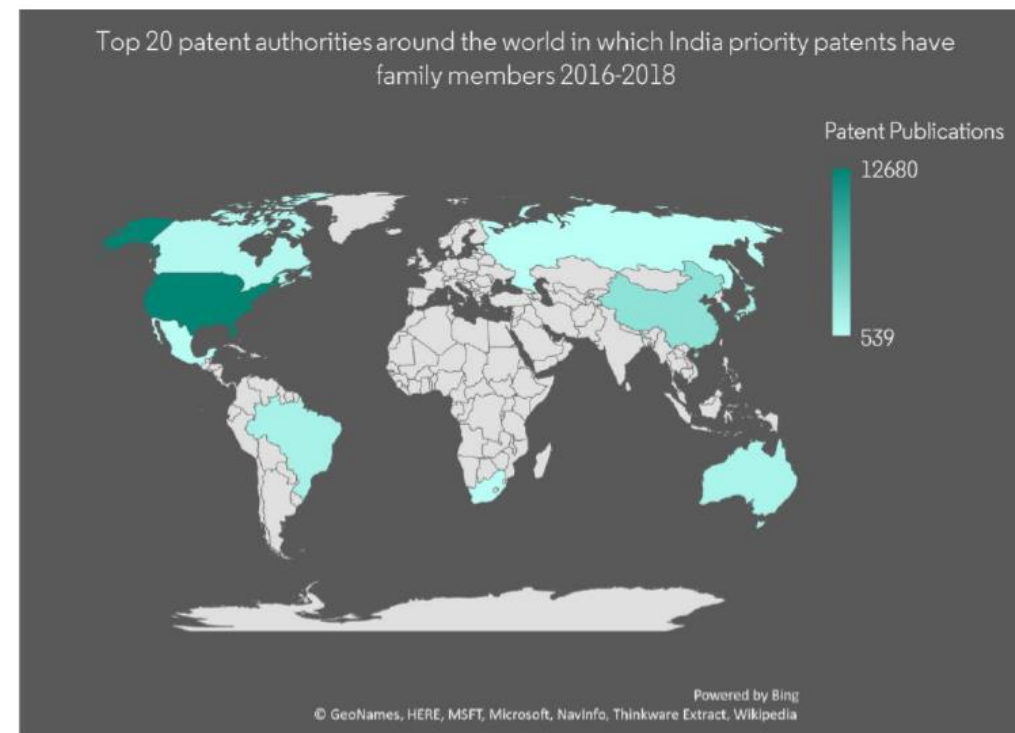


Figure 1: Top 20 patent authorities around the world in which India priority patents have family members, for the period 2016-2018.
Source: Derwent Innovation.

インド優先の特許が米国、欧州、中国、日本、オーストラリア、カナダなどでも出願されており、インドの組織・企業が海外のマーケットへ積極的に進出しています。

レポートは、どのような内容か？

トップ出願人

Indian Innovation: Top 30 patent filers

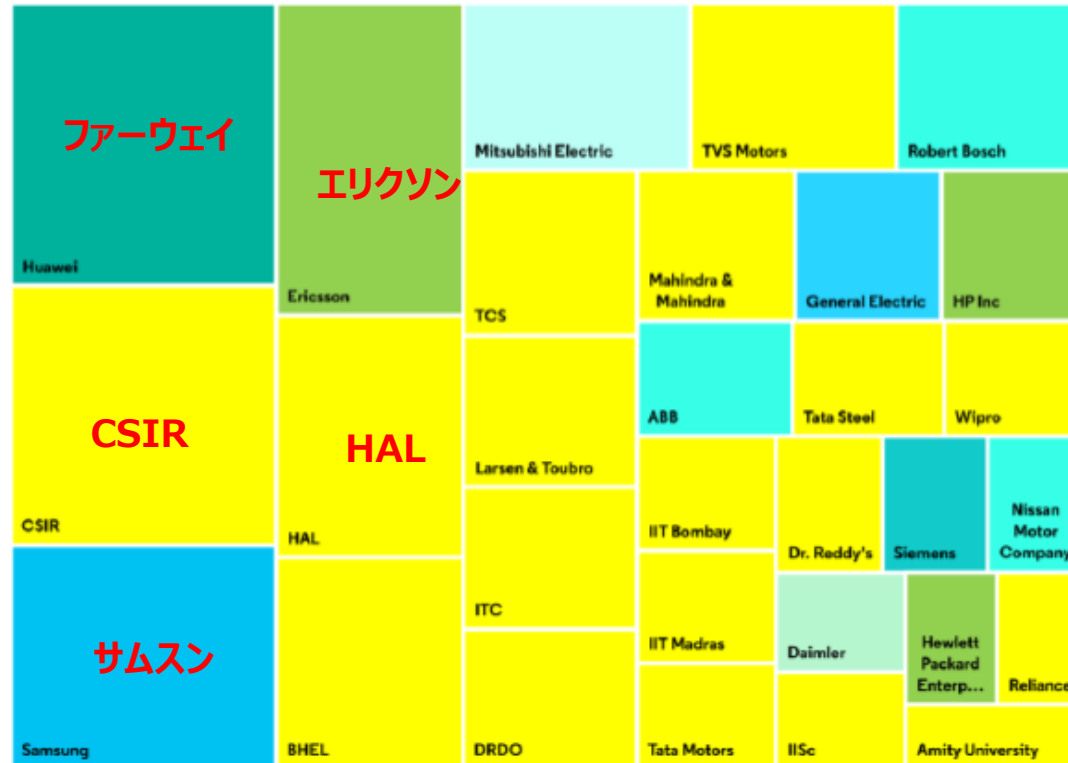


Chart 2: Indian Innovation – Top 30 patent filers, based on India priority patents published between 2016-2018.
Source: Derwent Innovation.

トップの**ファーウェイ**の特許は2016-2018年に集中しています。5 G分野において、インドを中国に次ぐ2番目のマーケットと捉え、通信分野の出願にフォーカスしています。

科学工業研究委員会（CSIR）は38個の研究所、39個のアウトリーチセンター、3つのイノベーションセンターの動的なネットワークを誇り、特許出願はポリマー（用途は食品、オイル、水、医薬など）、水精製、発酵、触媒などの分野にフォーカスしています。

サムスンはインド優先の特許が33%（サムスン社の2016-2018のインド特許公開のうち）を占めています。電話のディスプレイやバッテリー製造施設への投資、自然言語処理・AI・IoTなどのインドのスタートアップ企業に投資するなど、インドがサムスンのグローバル輸出ハブになりつつあります。特許出願はデジタルデータ処理、ワイヤレス通信ネットワーク、テレビの画像処理、音声分析などの分野にフォーカスしています。

スウェーデンの通信大手エリクソンは、人工知能（AI）で人材を採用する取り組みを強化しています。インド優先の特許が49%（エリクソン社の2016-2018のインド特許公開のうち）を占めています。

ヒンドスタン航空機（HAL）はインドの航空業界で唯一のインド系企業です。特許出願は航空機とヘリコプターの設計、航空機の推進/伝送システム、無線ナビゲーションの方法、プラスチックおよび建築部品に使用される複合材料にフォーカスしています。

レポートは、どのような内容か？

トップ技術分野

Top technology areas

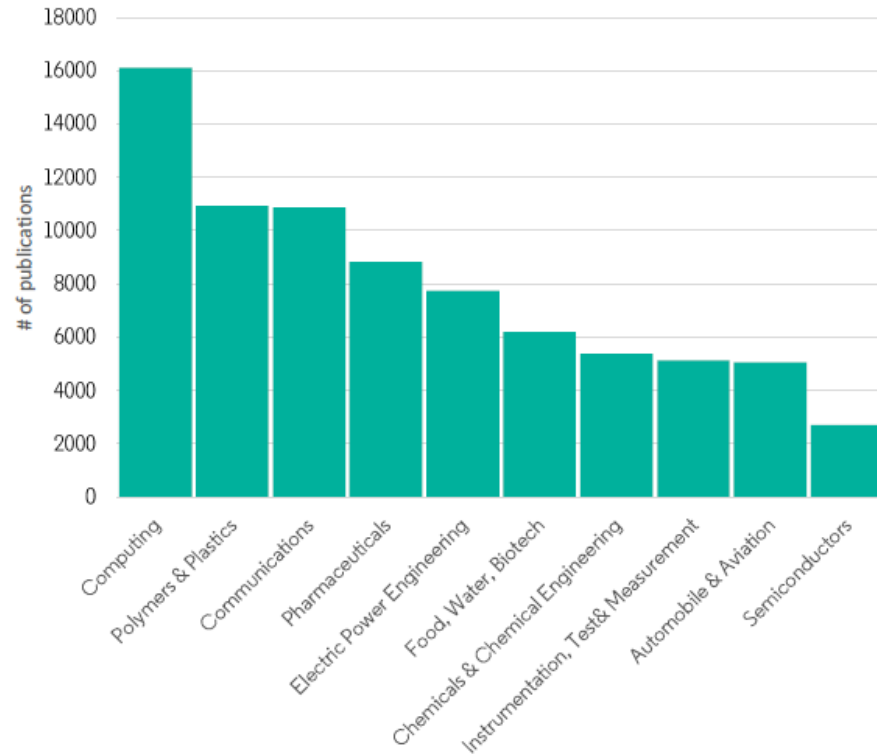


Chart 3: Top technology areas in Indian innovation, based on India priority patents published between 2016-2018.
Source: Derwent Innovation.

Technology growth rates

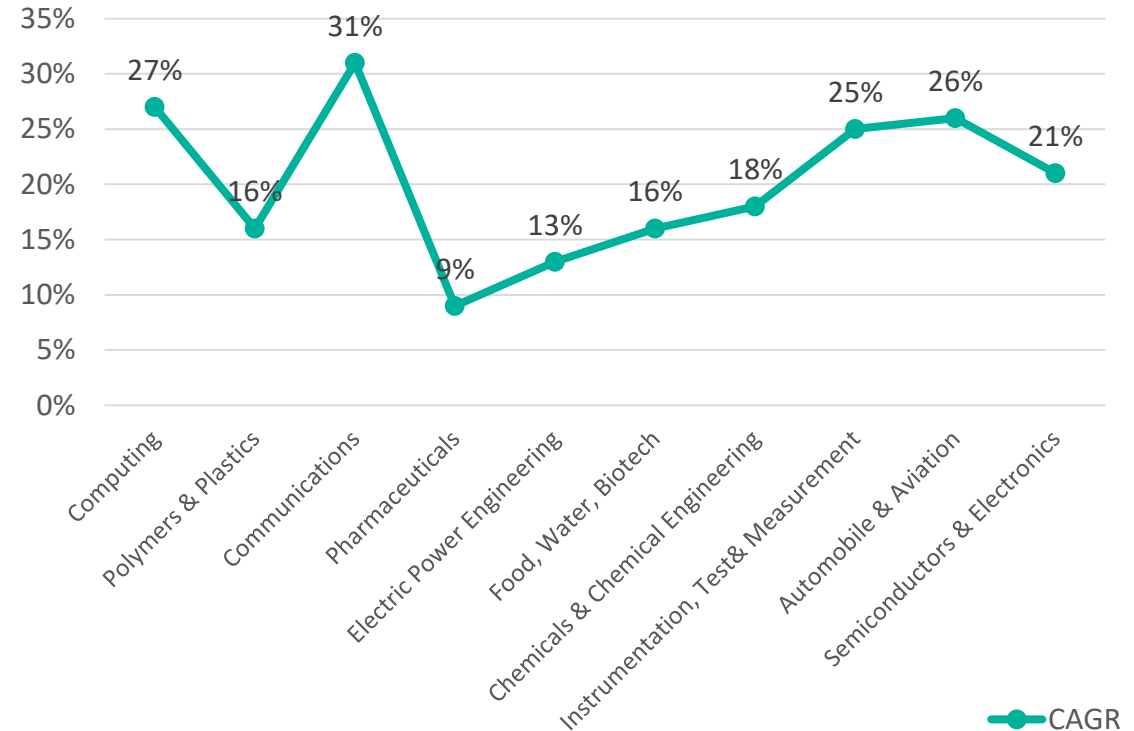


Chart 4: Technology growth rates, based on India priority patent publications published between 2014-2018.
Source: Derwent Innovation.

近年のスマートフォンに関連するテクノロジーとその用途の急増により、通信分野が31%と最速で成長しています。これに続き、インド産業の重要な柱を形成し、経済に大きく貢献するコンピューティングと自動車と航空が続きます。機器・検査装置の年間成長率は堅実に推移しています。これは、エンジニアリング業界での検査・測定やヘルスケア分野での診断テストの重要性が高まっていることを示しています。半導体・エレクトロニクスは、根強い競争が原因で、去年は減少しました。製薬業界もまた、業界の関心の変化のために、特許公開が減少しています。インドには伝統的なジェネリック医薬品企業があり、一部の企業は創薬にも投資していますが、まだ特許動向に大きく反映されていません。

レポートは、どのような内容か？

インド発の発明、優先権主張に関する世界的動き

Top patent authorities



Chart 26: Top patent authorities for patent filings among India-based research entities whose priority country was not India for patents published between 2016-2018.

この分析の結果は、2016年から2018年までの期間に、インドを拠点とする研究機関が51,000近くの特許を出願し、その優先国がインドではないことを示しています。これらの特許出願の第一優先権主張国は、US、EP、KR、WOおよびMXです。

特定された上位の技術分野は、コンピューティング、通信、半導体およびエレクトロニクスです。これらの傾向がインドを優先権とする特許公報の傾向とは少し異なることで、興味深いことです。

特に半導体がトップで、コンピューティングと通信は同様にランク付けされますが、ポリマーと製薬はそうではありません。これは、ポリマーと医薬品が強力なローカル産業であることを意味します。インドにいる半導体技術に関与する企業は、海外で保護しようと努めています。これらの特許は、インドのナレッジキャピタルに大きな貢献をしています。

レポートは、どのような内容か？

<India Innovation Report：まとめ・概要>

このレポートはインドを優先権主張国として出願し、2016年から2018年に公開された特許などからインド国内のイノベーションの最新状況を分析しています。

その一方で、インド居住者がインドを優先権主張国として挙げていない特許もかなり存在することが判りました。そのような特許がインドの知的財産の重要な一部を担っていることについてもレポートで報告しています。

<本レポートの主要な考察>

- ✓ 2014-2018年のインド優先権主張特許は年平均成長率**16%**
- ✓ 2016-2018年のインド優先権主張特許は**60355**件。これは2015-2017年の**54481**件を上回る。
- ✓ インドの全特許のうちインド優先権主張特許は2016年の**25%**から2018年の**34%**に増加。
インド由来の発明の成長、知財保護のマーケットとしてインドの重要性が増している。
上位**5**出願人はHuawei、CSIR、サムスン、エリクソン、HAL
- ✓ インド優先権主張特許の上位**30**出願人のうち、**18**出願人はインドに本社を置く組織
- ✓ 上位**5**技術分野はコンピューティング、ポリマー・プラスチック、通信、医薬、電力工学
- ✓ 直近**5**年間で最も成長している分野は通信、コンピューティング、自動車、機器
- ✓ アカデミック分野の特許について注目度や重要度は継続して増している。インド工科大学がそれをけん引している。

手法

件数推移

プレーヤー

技術分野

世界的動き

データの角度からみたインド特許

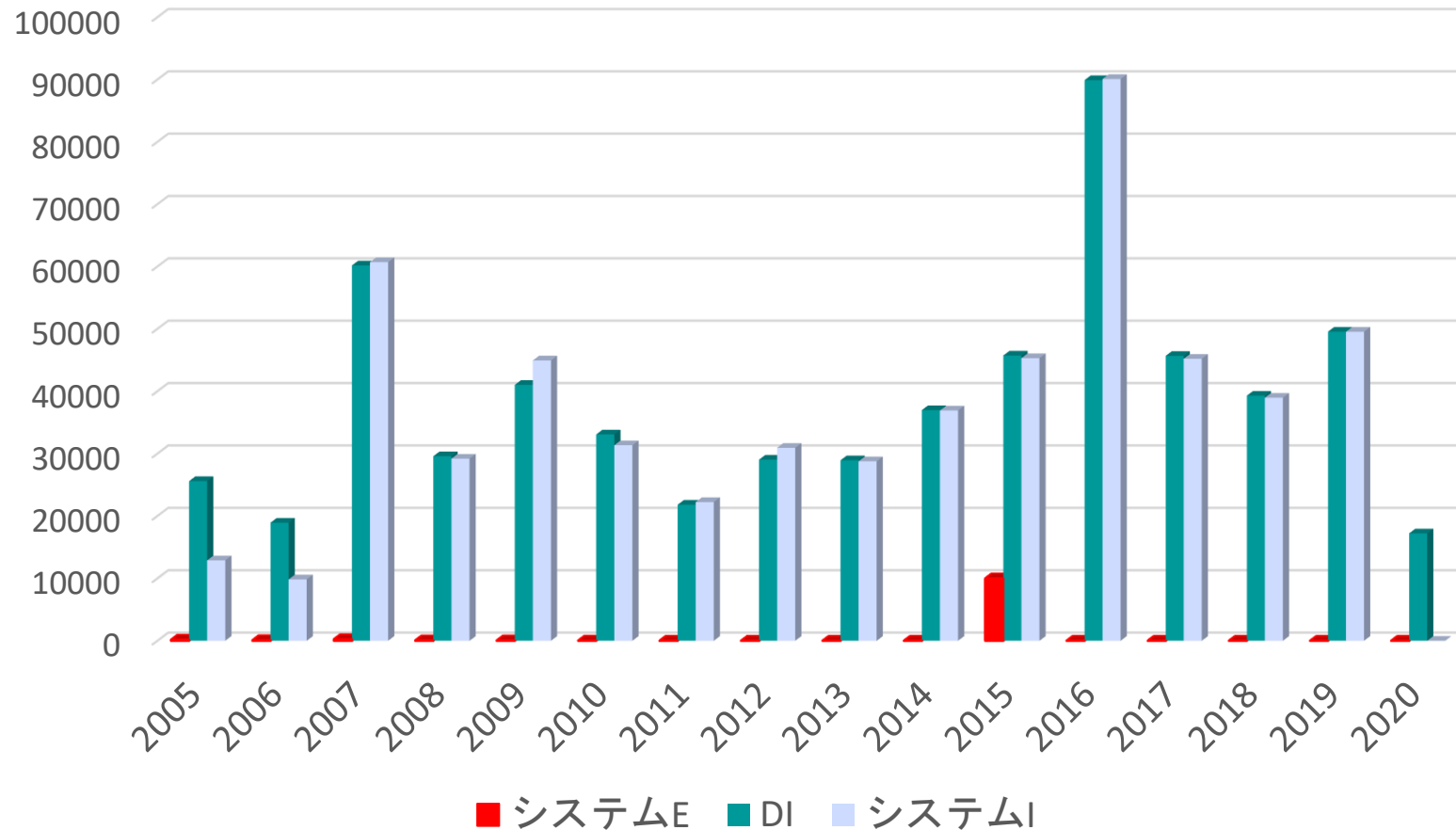
インドの収録（Derwent Innovation）フルテキストとDWPI

概要	インド公開特許	インド登録特許	インド公開・登録 (DWPIファミリー単位)
データタイプ	フルテキスト	フルテキスト	DWPIタイトル・抄録・出願人コード・ 分類コード、索引等付加価値
収録期間	1995年～現在	1999 年～現在 書誌事項 1975年～2009年 (一部を除く)	2000年～現在
言語	英語	英語	英語
更新頻度	毎週	毎週	2回/週
PDF/イメージの収録範囲	1995 年～現在	1991年～現在 1975年～1991年(一部を除く)を 特別注文可能	/
種別コードの収録範囲	A1、I1、I2、I3、I4、P1、 P2、P3、P4	B	A1、I1、I2、I3、I4、P1、P2、P3、P4 、B

*詳細は以下のページを参照してください
<https://clarivate.jp/training/derwent-world-patents-index/dwpi-coverage/>

インド特許収録比較 (例)

インド(INA)収録比較 2020.6.20



(1) INPADOC・DOCDB系DB(赤)
はほぼ収録していない

(2) Derwent Innovation (緑)

(3) インド特許庁系DB(淡青)

※1: INAに関して,(2).(3)はほぼ一致しているが、DIのほうが、早期（法制度改正前後）及び直近(収録即時性)の収録が明らかに良い

※2: 本図に表していないが、2000-2004の収録は、他のDBと比べ、DIのほうが明らかに良い収録を有する

(以上収録件数に限る比較)

インド特許収録比較 (例)

インド特許を幅広くカバー

INPADOCでは、2005年以降ほぼ収録していないところですが、Derwent Innovationでは、フルテキストおよびDWPIで2000年以降収録
正確なインド特許の数量分析を可能にしています

?% インド特許収録のカバレッジは、データソースにより、大きな差が出る可能性がある

	2016年	2017年	2018年
INPADOC	14	11	4
Derwent Innovation	98,189	57,942	53,113

インド特許のIPC付与の弱い部分もDWPIマニュアルコードがカバー

十分な特許分類が付与されていない場合も多いインド特許について、DWPIマニュアルコードにて、関連する技術分野すべての特許分類を付与
正確な技術分野分析を可能にしています

73% インド単願特許のうち、IPCが1つしか付与されていない特許の割合

公報番号	IPC	DWPIマニュアルコード
<u>IN2017210</u> <u>01636A</u>	C12Q000168	C04-A08G1 C04-A09 C04-A10 C04-A98 C04-E01 C04-E05 C04-E99 C11-C08E3 C11-C08E5 C11-C10C C12-K04F C14-S18 D05-H09 D05-H18B D05-H99 T04-C02
<u>IN2017210</u> <u>43202A</u>	F16M001100	A12-H A12-H03 A12-W08 Q68-A03 T01-L03 T01-M06A1 W01-C01A5 W01-C01D3C W01-C01G8S

正確に分析するには、よりデータが充実、且つ多様な分類を備えたツールが不可欠である

例：IN303309B コンテンツ（Claim 請求項）; (Description 明細書) 2020.6.22

請求項 (英語) 1. An energy dissipation device for a car body of a multielement vehicle, in particular a rail vehicle, impact and traction force between the car bodies of the vehicle in travel operation, and the energy dissipation device having the following: a damper regeneratively implemented damping element for damping traction and impact forces occurring in normal travel operation, and an energy dissipation unit having a destructively implemented energy dissipation element, which is designed to respond after a previously established critical impact force is exceeded and to convert at least a part of the impact forces transmitted via the energy dissipation element into deformation work by plastic deformation and thus dissipate them, wherein the damping unit is integrated in the energy dissipation unit in such a way that upon a transmission of impact forces, the force flux runs through both the damping unit and also the energy dissipation element. 2. The energy dissipation device according to Claim 1, wherein the damping element is implemented as a deformation element. 3. The energy dissipation device according to Claim 1, wherein the damping unit is implemented as a deformation element. 4. The energy dissipation device according to Claim 1, wherein the damping element of the damping unit is implemented as a deformation element. 5. The energy dissipation device according to Claim 1, wherein the previously determinable critical impact force occurs in a crash case. 6. The energy dissipation device according to Claim 1, wherein the damping element of the damping unit is connected in parallel with the energy dissipation element of the energy dissipation unit, so that during a transmission of impact forces, the incident force flux runs through both the damping element and also the energy dissipation element. 7. The energy dissipation device according to Claim 1, wherein the energy dissipation element is implemented as a deformation element, the energy dissipation element having a first deformation pipe section and a diametrically opposite second deformation pipe section, the second deformation pipe section having a cross-section expanded in comparison to the first deformation pipe section, and the damping unit being integrated in the energy dissipation element.	請求項 (英語) 1.多要素車両、特に鉄道車両の車体用のエネルギー散逸装置であり、衝撃および牽引力は、走行中に車両の車体間で伝達され、エネルギー散逸装置は以下を有する。通常の走行操作で発生する牽引力と衝撃力を減衰するために再生的に実装された減衰要素を持つユニット、および以前に決定可能な臨界衝撃力を超えた後に応答して変換するように設計された破壊的に実装されたエネルギー散逸要素を持つエネルギー散逸ユニットエネルギー散逸装置を介して熱および変形に伝達される衝撃力の少なくとも一部が塑性変形によって働き、したがってそれらを散逸させる。ここで、減衰ユニットは、衝撃伝達の際に力束が減衰ユニットおよびエネルギー散逸要素の両方を通して流れるようにエネルギー散逸ユニットに統合される。 エネルギー散逸要素が変形パイプとして実装される、請求項1に記載のエネルギー散逸装置。 前記減衰ユニットの減衰要素は、ばね要素として実装される、請求項1に記載のエネルギー散逸デバイス。 前記減衰ユニットの減衰要素は、エラストマー体として実装される、請求項1に記載のエネルギー散逸デバイス。 衝突の場合、以前に決定可能な臨界衝撃力が発生する、請求項1に記載のエネルギー散逸装置。 減衰ユニットの減衰要素は、エネルギー散逸ユニットのエネルギー散逸要素に並列に接続され、それにより、衝撃力の伝達中に、入射力フラックスが基本的に流れる、請求項1に記載のエネルギー散逸デバイス。減衰要素とエネルギー散逸要素の両方を通過します。 請求項1に記載のエネルギー散逸装置であって、ここで、エネルギー散逸要素は、車体側の第1変形管セクションと直径方向に対向する第2変形管セクションを有する変形管として実装され、第2変形管セクションは、第1変形管セクションと比較して断面が拡張されている。、および減衰ユニットは、第2の変形パイプとして実装される。 減衰ユニットが、エネルギー散逸ユニットのエネルギー散逸要素に並列に接続され、それにより、衝撃力の伝達中に、入射力フラックスが基本的に流れる、請求項1に記載のエネルギー散逸デバイス。減衰要素とエネルギー散逸要素の両方を通過します。
移動先: 書誌事項 抄録 クラス/インデックス 法的状況 ファミリー 請求項 明細書 引用 その他 カスタムフィールド <折りたたむ> 明細書 The present invention relates to an energy dissipation device for a car body of a multielement vehicle, in particular a rail vehicle, the energy dissipation device having a damping unit having a regeneratively implemented damping element for damping traction and impact forces 'occurring in normal travel operation, as well as an energy dissipation unit having a destructively implemented energy-dissipation element, the destructively implemented' energy dissipation element being designed to respond- after a previously' established critical impact force is exceeded and to convert at least a part of the impact forces transmitted via the energy dissipation element into heat and deformation work by plastic deformation and thus dissipate them. Energy dissipation devices of the type cited at the beginning are generally known in principle from the prior art and are used, for example, in rail vehicle technology in particular as a shock absorber for damping traction and impact forces occurring in normal travel operation. The damping unit is integrated in the energy dissipation unit. Typically, the damping unit is implemented as a deformation element, the damping element having a first deformation pipe section and a diametrically opposite second deformation pipe section, the second deformation pipe section having a cross-section expanded in comparison to the first deformation pipe section, and the damping unit being integrated in the energy dissipation element. 請求項1に記載のエネルギー散逸装置であって、ここで、エネルギー散逸要素は、車体側の第1変形管セクションと直径方向に対向する第2変形管セクションを有する変形管として実装され、第2変形管セクションは、第1変形管セクションと比較して断面が拡張されている。、および減衰ユニットは、第2の変形パイプとして実装される。 減衰ユニットが、エネルギー散逸ユニットのエネルギー散逸要素に並列に接続され、それにより、衝撃力の伝達中に、入射力フラックスが基本的に流れる、請求項1に記載のエネルギー散逸デバイス。減衰要素とエネルギー散逸要素の両方を通過します。	明細書 <折りたたむ> 明細書 本発明は、多要素車両、特に鉄道車両の車体用のエネルギー散逸装置であり、衝撃および牽引力は、走行中に車両の車体間で伝達され、エネルギー散逸装置は以下を有する。通常の走行操作で発生する牽引力と衝撃力を減衰するために再生的に実装された減衰要素を持つユニット、および以前に決定可能な臨界衝撃力を超えた後に応答して変換するように設計された破壊的に実装されたエネルギー散逸要素を持つエネルギー散逸ユニットエネルギー散逸装置を介して熱および変形に伝達される衝撃力の少なくとも一部が塑性変形によって働き、したがってそれらを散逸させる。ここで、減衰ユニットは、衝撃伝達の際に力束が減衰ユニットおよびエネルギー散逸要素の両方を通して流れるようにエネルギー散逸ユニットに統合される。 エネルギー散逸要素が変形パイプとして実装される、請求項1に記載のエネルギー散逸装置。 前記減衰ユニットの減衰要素は、ばね要素として実装される、請求項1に記載のエネルギー散逸デバイス。 前記減衰ユニットの減衰要素は、エラストマー体として実装される、請求項1に記載のエネルギー散逸デバイス。 衝突の場合、以前に決定可能な臨界衝撃力が発生する、請求項1に記載のエネルギー散逸装置。 減衰ユニットの減衰要素は、エネルギー散逸ユニットのエネルギー散逸要素に並列に接続され、それにより、衝撃力の伝達中に、入射力フラックスが基本的に流れる、請求項1に記載のエネルギー散逸デバイス。減衰要素とエネルギー散逸要素の両方を通過します。 請求項1に記載のエネルギー散逸装置であって、ここで、エネルギー散逸要素は、車体側の第1変形管セクションと直径方向に対向する第2変形管セクションを有する変形管として実装され、第2変形管セクションは、第1変形管セクションと比較して断面が拡張されている。、および減衰ユニットは、第2の変形パイプとして実装される。 減衰ユニットが、エネルギー散逸ユニットのエネルギー散逸要素に並列に接続され、それにより、衝撃力の伝達中に、入射力フラックスが基本的に流れる、請求項1に記載のエネルギー散逸デバイス。減衰要素とエネルギー散逸要素の両方を通過します。



例 : IN303309B (DWPI Abstract) 2020.6.22

主要データ

DWPIの抄録(英語)

新規性

Energy dissipation device comprises impact and traction forces being transmitted between the car bodies of the vehicle in travel of the vehicle; the device includes damping unit (11) having a regeneratively implemented damping element for damping traction and impact forces during operation; and an energy dissipation unit (21) having a destructively implemented energy dissipation element (20), which is designed so that when a determinable critical impact force is exceeded and to convert at least a portion of the impact forces transmitted via the energy dissipation unit into deformation work by plastic deformation and thus dissipate them, where the damping unit is integrated in the energy dissipation unit, the transmission of impact forces, and the force flux runs through both the damping unit and also the energy dissipation element.

用途

Energy dissipation device for a car body of a multielement vehicle (claimed).

優位性

The energy dissipation device helps in dissipation of the impact forces occurring in case of a crash are made possible in a small installation space.

図面の説明

The drawing shows schematic view of energy dissipation device for a car body of a multielement vehicle.

7 - Coupling arm.
11 - Damping unit.
12 - First pressure plate.
13 - Second pressure plate.
20 - Energy dissipation element.

DWPIの抄録(翻訳)

DWPI 抄録 (IN303309B_)

新規性

エネルギー散逸装置は、走行動作において車両の車体間で伝達される衝撃力および牽引力を含み、エネルギー散逸装置は、通常の走行操作で発生する牽引力および衝撃力を減衰するために再生的に実装された減衰要素を有する減衰ユニット（１１）を含む。そして、破壊的に実装されたエネルギー散逸要素（２０）を有するエネルギー散逸ユニット（２１）は、以前に決定可能な臨界衝撃力を超えた後に応答し、エネルギー散逸装置を介して伝達される衝撃力の少なくとも一部を変換するように設計される。塑性変形によって熱と変形の仕事になり、それによってそれらを消散させます。ここで、減衰ユニットは、衝撃力の伝達時にエネルギー散逸要素に結合されている。

用途

多要素車両の車体のエネルギー散逸装置。

優越

エネルギー散逸装置は、衝突の場合に発生する衝撃力の散逸を助け、狭い設置スペースで可能になります。

図面の説明

図面は、多要素車両の車体のエネルギー散逸装置の概略図を示しています。

7-カップリングアーム。
11-ダンピングユニット。
12-最初のプレッシャープレート。
13-2番目のプレッシャープレート。
20-エネルギー散逸要素。

Derwent Innovation On Demand Translation
OR
Google Translation (Chromeご利用の場合)

例 : IN303309B (INPADOC未収録、DWPIファミリーあり)

2020.6.22

ファミリー

<展開> INPADOC ファミリー (0)

DWPI ファミリー (1); 国/地域 (1) DWPI ファミリー: Alive

検索結果セットとして表示

	公報	DWPI 更新	公報発行日	IPC コード	無効/有効	言語
	IN303309B *	201908	2018-11-30	B01J003700		English

Local Applications: IN2007DE2641A filed 2007-12-17

例：IN249457B (オリジナルIPC正確ではなく、DWPIで修正されるケース) (Inpadocには未収録、DWPIではファミリーあり)

2020.6.20

(12) Indian Patent Specification

(11) Patent Number: 249457

(21) Application Number: 2219/CHENP/2006

(22) Filing Date: 20/06/2006

(43) Publication Date: 08/06/2007

(45) Date of Grant: 28/10/2011

(71) Applicant(s): HALDOR TOPSOE A/S

(72) Inventor(s): BREIVIK, Rasmus

(51) International Classifications: B10D 3/26; B10D 3/20; B01J 8/04

(30) Priority: 15/01/2004 Denmark PAV2004 00040

(86) International Application Number and Date: PCT/EP2004/014485 20/12/2004

(54) Title: VAPOUR-LIQUID DISTRIBUTION TRAY

(57) Abstract: Liquid-vapour distribution device for use in two-phase concurrent down-flow vessels, comprising: a level, horizontal tray being perforated with holes, each perforation through the horizontal tray being fitted with a vapour lift tube, the vapour lift tube consists of at least one elongated up-flow leg and one down-flow leg creating at least one up-flow zone and a down-flow zone between the up-flow zone and down-flow zone, the improvement of which comprises a bluff body being arranged within the t....

(51) International Classifications:
B10D 3/26; B10D 3/20; B01J 8/04

レコード表示: IN249457B

ワークファイルに追加 ▼ マークリストに追加 監視レコード ダウンロード

主要データ

移動先: 書誌事項 抄録 クラス/インデックス 法的状況 **ファミリー**

DWPI IPC ?

DWPI IPC コード (1-7) **B01D 3/26 B01D 3/20 B01J 8/04**

最新 DWPI IPC

フル

Inpadocには未収録、DWPIでは大きいファミリー

ファミリー ?

+ <展開> INPADOC ファミリー (0)

- DWPI ファミリー (21); 国/地域 (107) DWPI ファミリー: Alive

B01D 3/14
B01D 3/20
B01D 3/26
B01F 3/04
B01J 10/00
B01J 8/04
F02M 17/28
B01D 3/14
B01J 8/04
B01D
B01J

例： IN201203233I4 （オリジナルIPC正確ではなく、DWPIで修正されるケース） （Inpadocには未収録、DWPIではファミリーあり）

2020.6.22

(12) Indian Patent Application

(21) Application Number: 3233/CHE/2012

(22) Filing Date: 07/08/2012

(43) Publication Date: 24/08/2012

(71) Applicant(s): MARY ANNE PREETHA. K

(72) Inventor(s): Mary Anne Preetha, K.

(51) International Classifications: A16K 31/00; B82Y 15/00

(54) Title: A STUDY ON THE CYTOTOXIC EFFECT AND EFFICIENT INHIBITION OF CELL CYCLE PROGRESSION OF THE HUMAN BREAST AND LUNG CANCER CELL LINES BY THE DEVELOPED GELATIN ENCAPSULATED GLUTATHIONE REDUCTASE AND LYCOPENE (IN-VITRO)

(57) Abstract: Cancer is the most dreaded disease and is the second leading cause of death worldwide for 7.6 million deaths (around 13 per cent of all deaths) occurred in low and middle income countries in Fatalities from cancer worldwide are projected to continue to rise to over 13.1 million in 2030. Based on rate of incidence, it is believed that one in every three persons will develop cancer at some time during Nanotechnology is a useful tool for developing ways to

(51) International Classifications:
A16K 31/00; B82Y 15/00

DWPI IPC ?

最新 DWPI IPC	発明
フル	A61K 31/00
メイングループ	-
サブクラス	-

Inpadocには未収録、DWPIでは大きいファミリー

ファミリー ?

+ <展開> INPADOC ファミリー (0)

- DWPI ファミリー (2); 国/地域 (1) DWPI ファミリー: Alive

	公報	DWPI 更新	公報発行日
	IN201203233I4 *	201259	2012-08-24
Local Applications: IN2012CH3233A filed 2012-08-07			
	IN316287B =	201957	2019-07-19
Local Applications: IN2012CH3233A filed 2012-08-07			

例：IN315251B（出願国によって異なる出願人名，DWPI 出願人コード） 2020.6.27

DWPI 出願人: NUBIA TECHNOLOGY CO LTD (ZTEC-C) ; SHENZHEN ZTE MOBILE TELECOM CO LTD, (ZTEC-C)

DWPI 譲受人/出願人 ?

NUBIA TECHNOLOGY CO LTD (ZTEC-C) ; SHENZHEN ZTE MOBILE TELECOM CO LTD (ZTEC-C)

レコード表示: IN315251B

ワークファイルに追加 マークリストに追加 監視レコード ダウンロード 翻訳 ハイライト 印刷

主要データ

移動先: 書誌事項 抄録 クラス/インデックス 法的状況 ファミリー 請求項 明細書 引用 その他 カスタムフィールド

ファミリー

<展開> INPADOC ファミリー (0)

<折りたたむ> DWPI ファミリー (10); 国/地域 (130) DWPI ファミリー: Alive

検索結果セットとして表示

公報	DWPI 更新	公報発行日	IPC コード
 WO2015067015A1 *	201534	2015-05-14	H04N000973
Designated States: (National) AE AG AL AM AO AT AU AZ BA BB BG BH BN BR BW BY BZ CA CH CL CN CO CR CU CZ DE DK DM DO DZ EC EE EG ES FI G KG KN KP KR KZ LA LC LK LR LS LT LU LY MA MD ME MG MK MN MW MX MY MZ NA NG NI NO NZ OM PA PE PG PH PL PT QA RO RS RU RW SA SC SD SE UG US UZ VC VN ZA ZM ZW			
Local Applications: WO2014CN76910A filed 2014-05-06			
 KR2016056928A =	201638	2016-05-20	H04N0005235
Local Applications: based on WO2015067015 WO2014CN76910A filed 2014-05-06 KR2016709820A filed 2014-05-06 KR2016709820A filed 2014-05-06			
 EP3043557A1 =	201647	2016-07-13	H04N000973
Designated States: (Regional) AL AT BA BE BG CH CY CZ DE DK EE ES FI FR GB GR HR HU IE IS IT LI LT LU LV MC ME MK MT NL NO PL PT RO RS SE SI S			
Local Applications: based on WO2015067015 WO2014CN76910A filed 2014-05-06			

IN315251B (INPADOC未収録、DWPIファミリーあり)

(12) Indian Patent Specification

(11) Patent Number: 315251 (21) Application Number: 201617012512

(22) Filing Date: 08/04/2016 (43) Publication Date: 31/08/2016 (45) Grant announcement date: 28/06/2019

(71) Applicant(s): NUBIA TECHNOLOGY CO LTD

(72) Inventor(s): Li, Qiang
ZHAO, Yunze

(51) International Classifications: H04N 9/73

(30) Priority: 08/11/2013 CN 201310557312.8

(86) International Application Number and Date: PCT/CN2014/076910 06/05/2014

(87) International Publication Number: WO/2015/067015

(54) Title: WHITE BALANCE ADJUSTMENT METHOD AND DEVICE

(57) Abstract: A method and device for adjusting white balance are value, and adjusting white balance according to the colour temperature effects through adjustment according to preferences, take requirements of the user. The user may also lock the white balance photographing environment, so as to acquire a special photograph according to an individual requirement, and greatly improving the u

IN:NUBIA TECHNOLOGY

(12) 按照专利合作条约所公布的国际申请

(19) 世界知识产权组织 国际局

(43) 国际公布日 2015年5月14日 (14.05.2015)

(10) 国际公布号 WO 2015/067015 A1

(51) 国际专利分类号: H04N 9/73 (2006.01)

(21) 国际申请号: PCT/CN2014/076910

(22) 国际申请日: 2014年5月6日 (06.05.2014)

(25) 申请语言: 中文

(26) 公布语言: 中文

(30) 优先权:

(71) 申请人: 深圳市中兴移动通信有限公司 (SHENZHEN ZTE MOBILE TELECOM CO. LTD.) [CN/CN]; 中国广东省深圳市南山区高新区北环大道9018号大族创新大厦A区10楼, Guangdong 518000 (CN).

(72) 发明人: 刘强 (LI, Qiang); 中国广东省深圳市南山区北环大道9018号大族创新大厦A区10楼, Guangdong 518000 (CN); 赵运泽 (ZHAO, Yunze); 中国广东省深圳市南山区北环大道9018号大族创新大厦A区10楼, Guangdong 518000 (CN).

(74) 代理人: 广东广和律师事务所 (GUANG DONG GUANG HE LAW FIRM); 中国广东省深圳市福田区红荔路世茂广场A座20层, Guangdong 518033 (CN).

(54) 标题: 白平衡调整方法和装置

(57) 摘要: 本发明公开了一种白平衡调整方法和装置, 所述白平衡调整方法包括步骤: 获取用户自定义的色温值; 根据所述色温值和预设算法调整白平衡; 从而, 用户可以根据自己的喜好调整出各种白平衡效果, 进而拍摄出个性化的、具有各种效果的摄影作品, 满足了用户的个性化需求。用户还可以锁定当前调整后的白平衡, 将白平衡自动应用到其他拍摄环境, 进而可以获得特殊的摄影效果, 使得用户可以根据自身需要获得具有独特艺术效果的摄影作品, 极大的提升了用户体验。

WO:SHENZHEN ZTE MOBILE TELECOM

图1 / FIG. 1



まとめ

1. 近年インドの特許事情の全体像を知る

原文レポート（英語）を閲覧したい場合、より理解が深まる

2. レポートを通じて、アナリストの感覚を養うのに役に立つ

定期的に俯瞰的な分析レポートを選んで読むことで、洞察力を高めることができる

世界中の情報をタイムリーに入手するには、英語のソースを読むことを心掛けることを勧める

3. データの視点から、留意するポイントを把握する

収録データソースによる収録率及び分類付与状況の違いを知る

背景

手法

件数推移

プレイヤー

技術分野

世界的動き

データ

本セミナーの内容は、少しでも皆様の参考やヒントになれば幸いです。



サービス全般に関するお問い合わせ

Tel: 03-4589-3101

Email: marketing.jp@clarivate.com

〒107-6119 東京都港区赤坂5丁目2番20号
赤坂パークビル19階

カスタマーサービス（ヘルプデスク）

Tel (フリーコール) : 0800-888-8855

Tel : 03-4589-3107

Email: ts.support.jp@clarivate.com

サービス時間：月～金（祝祭日を除く）
午前9時30分～午後5時30分